（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年10月2日※1

（前回公表年月日：令和4年12月20日）

# 職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 |
|---|---|---|---|
| 宮崎マルチメディア専門学校 | 昭和51年4月1日 | 佐藤　竜一 | 〒880-0812<br>宮崎県宮崎市高千穂通2－4－37<br>（電話）0985－20－3667 |
| **設置者名** | **設立認可年月日** | **代表者名** | **所在地** |
| 学校法人向洋学園 | 昭和44年8月22日 | 井手脇　康智 | 〒880-0812<br>宮崎県宮崎市高千穂通2－4－37<br>（電話）0985－20－3667 |

| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 商業実務 | 商業実務専門課程 | ITビジネス科 | 平成27年<br>文部科学大臣告示第13号 | ― |

| | |
|---|---|
| 学科の目的 | システムの開発や運用、保守関連の会社で活躍する学生を育成するために、プログラミング、情報処理、セキュリティなどの専門技術を学びます。 |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2年 | 昼間 | 1700時間 | 646時間 | 0時間 | 1330時間 | 0時間 | 0時間 |
| | | | | | | | 単位時間 |

| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数（生徒実員の内数） | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60人 | 105人 | 0人 | 4人 | 3人 | 7人 |

**学期制度**

■前期：4月1日～9月30日
■後期：10月1日～3月31日

**成績評価**

■成績表：　有
■成績評価の基準・方法
優(90以上)・良(70以上)・可(40以上)・不可(40未満)で評価

**長期休み**

■学年始：4月6日
■夏　季：7月27日～8月31日
■冬　季：12月20日～1月8日
■学年末：3月8日

**卒業・進級条件**

進級：単位の修得、欠席及び欠課が1/4以下
卒業：単位の修得、欠席1/4以下

**学修支援等**

■クラス担任制：　有
■個別相談・指導等の対応
学生との二者面談は定期的に実施
学生、保護者との三者面談を実施

**課外活動**

■課外活動の種類
ボランティア活動(周辺地域のイベントのお手伝い、清掃作業)
■サークル活動：　有

**就職等の状況※2**

■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生）
システム開発会社、システム運用・保守会社　等

■就職指導内容
担任、就職指導部で連携し、毎週面談を実施しながら計画的に就職活動を行っている

| | | |
|---|---|---|
| ■卒業者数： | 47 | 人 |
| ■就職希望者数： | 45 | 人 |
| ■就職者数： | 43 | 人 |
| ■就職率： | 95.6 | % |
| ■卒業者に占める就職者の割合 | | |
| ： | 91.5 | % |

■その他
・進学者数：　0人

（令和　4 年度卒業者に関する
令和5年5月1日 時点の情報）

**主な学修成果（資格・検定等）※3**

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）

| 資格・検定名 | 種別 | 受験者数 | 合格者数 |
|---|---|---|---|
| 情報セキュリティマネジメント試験 | ① | 5人 | 5人 |
| ITパスポート試験 | ① | 18人 | 18人 |
| Javaプログラミング | ③ | 47人 | 37人 | |

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄

**中途退学の現状**

■中途退学者　3　名　■中退率　3 %
令和4年4月1日時点において、在学者100名（令和4年4月1日入学者を含む）
令和5年3月31日時点において、在学者97名（令和5年3月31日卒業者を含む）
■中途退学の主な理由
・進路変更（就職・進学）

■中退防止・中退者支援のための取組
・担任による学生との面談と保護者への学校生活や学習状況の報告を定期的に実施
・新入生の保護者説明会と三者面談の実施

**経済的支援制度**

■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有
向洋学園特待生制度（1年次の年間授業料を免除。選考試験を行い結果により免除額が決まる）

■専門実践教育訓練給付：　給付対象
前年度　0人

**第三者による学校評価**

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

**当該学科のホームページURL**

www.multi-m.jp

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等につ

3．主な学修成果（※3）

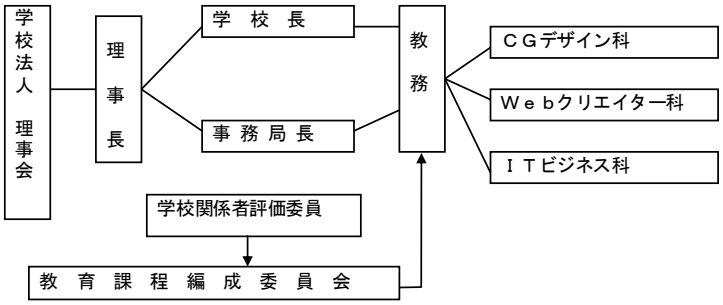
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

① 企業内での専門的業務に従事するために必要な実践力及び、実務能力を身につけさせるための教育課程を編成するため、年度内に各企業との求められる能力や身につけさせておくべき知識についてのヒアリングを行い、次年度に盛りこむ。
② 学生の実務能力や社会適合能力を高めるため、インターンシップを積極的に取り組み、その成果を発表させる機会となる授業科目を開設する。　例：インターンシップ・実習での経験をもとに設定したテーマの下、作品の製作や研究を進め、プレゼンテーションを実施
③ 専攻分野に対する専門知識や現場で求められる能力を的確に身につけさせるために、業界からの講師を積極的に招聘する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け




毎年度末、学校関係者委員を招聘、会議を開催する。そこでの討議結果を教育課程編成委員会にも通達し、
その上で得た意見や情報を次年度のカリキュラムに組み込む。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

| 名　前 | 所　　属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 白石　敬晶 | 宮崎産業経営大学 経営学部　教授 | 令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年） | ② |
| 匠　貴司 | 株式会社グローアップ　代表取締役社長 | 〃 | ③ |
| 小園　浩之 | 株式会社ジーニアスウェブ　代表取締役 | 〃 | ③ |
| 森　茂仁 | 株式会社ヴァリューシステム　代表取締役会長 | 〃 | ③ |
| 佐藤　竜一 | 学校法人向洋学園　宮崎マルチメディア専門学校　校長 | 〃 | |
| 三橋　幸四郎 | 学校法人向洋学園　宮崎マルチメディア専門学校　副校長 | 〃 | |
| 戸田　美香 | 学校法人向洋学園　宮崎マルチメディア専門学校　副校長 | 〃 | |
| 押川　知寛 | 学校法人向洋学園　宮崎マルチメディア専門学校　学科長 | 〃 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回実施　　9月、3月実施予定

（開催日時）
第1回　令和5年9月21日　14:00～15:50
第2回　令和6年3月8日　14:00～15:50(予定)

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
教育課程編成委員会で委員から頂戴した以下の意見について、実施の可能性や方法を検討し対処していく。
＜課題1＞「やりたい仕事がない」という学生にITエンジニア職の魅力をどう伝えていくか。
＜企業等委員の意見＞前回の課題を継続して議論、「仕事のバリエーションを見せることで、選択の幅も広がり、積極的に動くのではないか」、「まずはやる気のある学生の指導からで良いのではないか」の意見を検討した。 ＜活用内容＞ ・就職説明会を例年以上に早めに計画する、・いろんな企業を見せる機会を増やしていく、 ・個人の就職活動を積極的に進めていく、を実行したことで、就活の滑り出しは順調であった。

＜課題2＞学力、やる気、性格差の広がりに対処した指導が必要となっている。
＜企業等委員の意見＞「クラス分けによる指導」、「シラバス通りに進めて行くなかでの個別指導」の意見が出た。＜活用内容＞・段階ごとに質問をさせる、 ・TAを検討する、 ・放課後の補講、 を実行することで学生の学びの変化を見て行く。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①実習・演習を円滑に開始できるように、入学直後より、校内での事前指導や講習会を実施する。

②実習先となる企業の情報を的確に学生に開示すると共に、校外実習の受け入れ先である企業見学会の機会を与え、自発的な取り組みを促す予備知識を習得させる。 ③実務的な実践力のみでなく、各自の職業観や社会人としての自覚を促すため、企業等からの評価は多角的な視点のものにする。 ④長期に渡る実習の場合は、その段階的な成長を図るため、評価の機会を増やす。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

IT担当の教員と企業の講師が実習前に打ち合わせを行い、実習内容、到達目標等について定める。実習期間中は、担当教員がIT全般の基本的な指導を行い、企業の講師が定期的に専門性の高い技術的な指導を行う。担当教員と企業の講師が連携しながら進捗の確認や評価などの授業運営を行う。 実習修了時には、企業の講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科 目 名 | 科 目 概 要 | 連 携 企 業 等 |
|---|---|---|
| ゲームプランニングⅠ | ゲーム企画の考え方を学び、企画書としてまとめ、企画資料のポートフォリオを作成する。また、プランナーとしての業務を実践する。 | 株式会社ミグ |
| ゲームプランニングⅡ | ゲームプランナーの業務の基本を学び、資料をまとめる。また、プレゼンやプレスト等から開発業務に役立つスキルを習得する。 | 株式会社ミグ |
| Webプログラミング | CMS(WordPress)の作成言語PHPの基本構文及び、実際のロケーションでのプログラミングの組み込み応用を習得する。 | 株式会社イチカラ |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

学校法人向洋学園教職員研修規程に明記されている規程に従って以下の基本方針のもと研修を実施する。なお、専攻分野における実務に関する研修は、ITビジネス科が目指す職種であるプログラマーやシステムエンジニアに関わる研修を基本として、指導の幅を広げるためのIT業界全般の研修も実施する。また指導力の修得・向上のための研修は、教員資質の向上に関する研修を実施する。前期（4月～9月、夏季休暇）、後期（10月～3月）の期間を考慮し年間を通して計画する。

① 学科の特性に合わせ、現場の活きた知識や、先見的な意見を学ぶ機会を定期的に設ける。
② 学生の健全な生活をフォローするために必要となる指導力を向上させる為の研修機会を設置・受講させる。
③ 各研修で身に付けた知識等を確実に学生にフィードバックするため、研修の報告を義務付ける。
④ 各自の指導力を高めるため、定期的に研究授業の機会を設け、それに対する評価を全職員に実行させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名：高等教育機関における、基礎学力の重要性
講師：株式会社コウェル 実施日：令和4年6月7日・9月14日 対象：学科教員
研修内容：Webアプリケーション制作においての実装、及びグループワークを通じてのコミュニケーションスキルの取り方。

・研修名：ぷよぷよプログラミングでアプリ開発体験
講師：アシアル情報教育研究所・セガ講師 実施日：令和4年6月10日 対象：学科教員
研修内容：「ぷよぷよ」のプログラミングの概要を学びつつ、Monaca Educationと呼ばれるWeb開発環境を用いて実際に作成しカスタマイズを行う。2コマ程度の授業とSEGAが行っているeスポーツ部応援プロジェクトについての紹介。

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名：高等教育機関における、基礎学力の重要性
講師：株式会社すららネット 実施日：令和4年6月24日 対象：学科教員
研修内容：就職・合格に繋がる実践的リメディアル教育事例、就職後のキャリアを見据えた生き抜く力、高等教育機関における基礎学力アセスメントについて

・研修名：ワークショップ体験型セミナー「多様な学生への向き合いかた～一人ひとりに合わせた最適化指導とは～」
講師：株式会社進研アド 実施日：令和4年10月11日 対象：学科教員
研修内容：専門学校の新入生が抱える課題を整理する。個別指導の進め方をワークショップから体験する。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名：Webシステム開発に関わるライフサイクル全般の経験
講師：株式会社コウェル 実施日：令和5年6月14日 対象：学科教員
研修内容：Webアプリケーション制作においての実装、及びグループワークを通じてのコミュニケーションスキルの取り方。

・研修名：「実務へのAI実装」 実社会へのAIツール・データ活用事例
講師：株式会社 実施日：令和5年6月21日 対象：学科教員
研修内容：最新のAI界隈の動向。ベイジアンネットワークによる実社会の問題解決の事例（病院のベッド利用率90%越えなど）の紹介。

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名：データから見る2024年度入学生に求められる学生指導とは
講師：株式会社 実施日：令和5年7月25日 対象：学科教員
研修内容：データから見る入試環境の実情と専門学校進学者層への影響、及びこれからの新入生に向けた効果的な指導と中退予防について。

・研修名：「正解じゃないと動けない、失敗をしたくない学生たちへ、前進と安心を創る、テクニックではない聴き方」
講師：仙台青葉学院短期大学 佐藤和美先生 実施日：令和5年8月28日 対象：学科教員
研修内容：テーマは「聴き方」。テクニックを越えた「聴き方」で、学生、保護者、高校の先生、企業の方、教職員同士と会話ができたら何が起こるかを先生方が体験する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学生がよりよい教育活動を受けられることを目指し、学校をよりよくすることを目的とする。そのために、多岐に渡る意見及び、客観的な意見が必要となることから、学校職員はもとより、卒業生・保護者・関連企業の関係者を委員に命ずることとする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---|---|
| （1）教育理念・目標 | 教育理念、教育目的、人材育成像 |
| （2）学校運営 | 諸規定の制定、学則・細則・内規等の整備、防犯対策、個人情報の保護、意思決定機関 |
| （3）教育活動 | 教育理念・教育目的・目指す人材像を反映したカリキュラム、カリキュラムの定期的見直し、キャリア教育、授業アンケート、授業計画、成績評価・単位認定、資格試験、教職員、 |
| （4）学修成果 | 就職率・推移、資格取得率・推移、退学率の低減 |
| （5）学生支援 | 進路・就職への支援、学生相談への支援、学生への経済的支援、保護者との適切な連携、卒業生への支援対策 |
| （6）教育環境 | 教育施設・設備、学内外の実習・インターンシップ、危機管理 |
| （7）学生の受入れ募集 | 学生募集活動の適正性、教育成果の伝達、入学選考、学納金 |
| （8）財務 | 財務状況、監査、財務状況の情報公開 |
| （9）法令等の遵守 | 法令遵守の状況、適切な学校評価への取り組み |
| （10）社会貢献・地域貢献 | 社会貢献、公開授業・出張講座、ボランティア活動 |
| （11）国際交流 | |

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で討議した意見について、改善方策を検討し対処できるように努めている。

①企業等委員の意見 ： 「学生及び職員の個人情報について、個人情報保護法を遵守しているか」の評価項目について、「個人情報の取り扱いを適切にするために、リスク管理、現状の個人情報の把握と分析、そして社員教育等が必要である」、「情報はデジタルなのか、また紙データで持つ必要性があるのか」という意見が出た。

活用内容 ： 成績等の重要データはスタンドアロンで管理されているが、それ以外の個人情報の把握と今後の取り扱い方を検討していく。

② 企業等委員の意見 ： 「関連分野に於ける実践的な職業教育（インターンシップや実習）が体系的に位置づけられているか」の評価項目について、「IT開発系の企業ではインターンシップは擬似体験しかできない」、「内定前と後では学生のインターンシップの捉え方が違い、インターンシップの在り方を考えたほうがよいのでは」という意見が出た。

活用内容 ： ”内定前インターンシップ”、”内定後インターンシップ”、それぞれの参加する枠組みを取り決めて、企業紹介・連携、計画、学生管理等を検討していく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|---|
| 白石 敬晶 | 宮崎産業経営大学 経営学部 教授 | 令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年） | 大学 |
| 匠 貴司 | 株式会社グローアップ 代表取締役社長 | 〃 | 関係企業 |
| 小園 浩之 | 株式会社ジーニアスウェブ 代表取締役 | 〃 | 関係企業 |
| 森 茂仁 | 株式会社ヴァリューシステム 代表取締役会長 | 〃 | 関係企業 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）

URL: www.multi-m.jp 公表年月日：令和5年10月2日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携を円滑に進めるために必要な学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報は、速やかにかつ的確に提供することとする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|---|---|
| （1）学校の概要、目標及び計画 | 教育理念、校長名、所在地、連絡先 |
| （2）各学科等の教育 | 収容定員、在学学生数、カリキュラム、時間割、目指す資格、卒業後の進路 |
| （3）教職員 | 教職員名、教職員の専門性 |
| （4）キャリア教育・実践的職業教育 | 学内外に於ける実習、キャリア教育の実施状況 |
| （5）様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、学校施設、地域環境 |
| （6）学生の生活支援 | 二者面談、三者面談 |
| （7）学生納付金・修学支援 | 学納金、奨学金、授業料減免についての案内 |
| （8）学校の財務 | 財務状況閲覧規則 |
| （9）学校評価 | 自己評価の結果、学校関係者評価の結果 |
| （10）国際連携の状況 | なし |
| （11）その他 | なし |

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ）

URL: www.multi-m.jp

# 授業科目等の概要

（商業実務専門課程ITビジネス学科）令和５年度

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | ＩＴ論Ⅰ | 企業で活用するIT戦略、システム構築、システム開発関連の知識、関連法規等について学習する。ＩＴパスポート試験合格レベルの習得及び、過去問題演習。 | 1通 | 76 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | ＩＴ論Ⅱ | IT業界で必要となる知識から、「基本情報技術者試験」、「情報セキュリティマネジメント試験」の内容を学習する。合格レベルの習得及び、過去問題演習。 | 1通 | ## | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | プログラム基礎 | アルゴリズム(データ構造、探索等)、フローチャート、疑似言語の基礎を習得(Javaでプログラミング)する。 | 1通 | ## | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | プログラミング実習Ⅰ | Ｊａｖａプログラミングの基礎の習得からＪａｖａプログラミング検定(３級)の取得及び、オブジェクト指向の基礎を習得する。 | 1通 | ## | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | プログラミング実習Ⅱ | オブジェクト指向の特性を活かしたプログラムの実装及び、Ｗｅｂアプリケーションの実装を習得する。Ｊａｖａプログラミング検定(２級)の取得。 | 2通 | ## | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | プログラミング実習Ⅲ | ゲーム制作を題材に大規模アプリを開発する際に必要な知識・テクニックを学習する。また、デザインパターンの事例からオブジェクト指向を習得する。 | 2通 | ## | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | データベース | データベースの基本理論・設計を学習し、データベースの操作方法であるＳＱＬを用いた操作方法を習得する。 | 2通 | ## | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ゲームプランニングⅠ | ゲーム企画の考え方を学び、企画書としてまとめ、企画資料のﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵを作成する。また、プレゼン、議事録、採算表の作成などプランナーとしての業務を実践する。 | 1通 | 38 | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ |
| | ○ | | ゲームプランニングⅡ | ゲームプランナーの業務の基本を学び、資料をまとめる。また、プレゼンやブレスト、ゼミを通して開発業務に役立つスキルを習得する。 | 2通 | 38 | | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ |
| | ○ | | ゲーム開発実習Ⅰ | ゲームエンジン（Ｕｎｉｔｙ）の基本操作やゲームシステム及び、ゲーム特有のアルゴリズムを習得する。オリジナルゲームの制作。 | 1通 | ## | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | ゲーム開発実習Ⅱ | UnrealEngine4を使用してサンプルゲームの作成を行い、問題解決能力やチーム演習での開発スキルを習得する。 | 2通 | ## | | | | ○ | ○ | | | ○ | |

授業科目等の概要

（商業実務専門課程ITビジネス学科）令和５年度

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | AI・Python | ＡＩにおける機械学習やディープラーニングの技術とその手法及び、Pythonを用いた機械学習の演習を通して、プログラミング技術とライブラリ活用法を習得する。 | 2通 | 76 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | テスト技法 | ソフトウェア開発において、良いソフトウェアを開発するための考え方や方法論について、ソフトウェアテストの観点から習得する。 | 2通 | 38 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ＩＣＴ業界研究 | ＩＴ業界におけるオーソドックスな考え方や方法論を主として取り上げる一方で、最新のＩＴトレンドについても習得する。 | 1通 | 38 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Ｗｅｂ基礎 | Ｗｅｂの仕組みからＨＴＭＬ・ＣＳＳ及び、コーディング手法を習得する。Ｗｅｂクリエイター能力認定試験スタンダードの取得。 | 1通 | 38 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | Ｗｅｂ基礎 | 実践的なコーディングを学び、様々なレイアウトのコーディングを実習形式で習得する。 | 2通 | 38 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | Ｗｅｂプログラミング | ＣＭＳ(ＷｏｒｄＰｒｅｓｓ)の作成言語ＰＨＰの基本構文及び、実際のロケーションでのプログラミングの組み込み応用を習得する。 | 1前 | 19 | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | ＪａｖａＳｃｒｉｐｔ | ＪａｖａＳｃｒｉｐｔの基本構文を理解し、ＨＴＭＬ／ＣＳＳ／JavaScriptを複合し動的なウェブサイトの実装を習得する。 | 2通 | 38 | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 社会常識Ⅰ | 一般常識とビジネスマナー等の習得と社会人常識マナー検定取得及び就職のための自己分析、履歴書作の書き方、コミュニケーション力アップのための活動を学習する。 | 1通 | 114 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 社会常識Ⅱ | 社会人としての一般常識及び就職活動のための企業研究、エントリー、面接練習、コミュニケーション力アップのための活動を学習する。 | 2通 | 228 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 20科目 | 1976単位時間（　単位） | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---|---|---|
| 卒業要件：単位の習得、欠席時数が出席すべき日数の1/4以下 | １学年の学期区分 | ２期 |
| 履修方法：定期考査(前期・後期)及び平常成績(出席状況等)、欠課時数が総時間の１/4以下 | １学期の授業期間 | ２０週 |

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。